

営業所通信④

釧路営業所からの紹介： 『自給飼料を考えてみませんか？』

平素より弊社事業に格別なご愛顧頂き誠にありがとうございます御座います。皆様にはほんの少しでも有益な情報になれば幸いです。

○(主題と離れますが)新社屋完成いたしました！



写真1) 平成24年3月より新社屋完成！

釧路営業所は、弊社が釧路に拠点を設けた昭和41年からの長きに渡る皆様方からの絶え間ないご支援をいただいております。旧社屋の老朽化が著しかったことから惜しまれつつ取り壊し、平成24年3月に新社屋が完成しました。新社屋での業務を所員全員が気分を一新し、新鮮な気持ちで日々の業務に取り組んでおります！



写真2) 平成24年3月までの旧社屋。

お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください！

○自給飼料について考えてみる。

「ウチの草を粗飼料なんて言って欲しくない。草に精魂込めているから自給飼料って呼んで欲しい」とお世話になっている酪農家様から頂戴したお声です。確かに！皆様の牧草は、漢字ごとく「粗飼料＝粗末な飼料」になっていませんか？「自給」は、英語で「self support」と書きます。日本語辞書によると「自給」とは「必要な物資を、他に求めるのではなく、自力で獲得してまかなうこと。」とあります。

『自給飼料は自分の努力分だけ自分自身の経営をサポートしてくれる。』という解釈はいかがですか？

○【self support 飼料】

30kgの牛乳を生産する牛は、水分を除いた乾

物で約22kgのエサを摂取します。簡単に言うと、22kgの約半分は濃厚飼料が占め、残りの半分は自給飼料です。濃厚飼料がエサの半分を占めるわけですから、原料であるトウモロコシ相場が8ドル/ブッシュ（H24年8月4日現在）を越える相場は大打撃と言えます。一方、皆様の畑から収穫される自給飼料がエサのもう半分を占めています。それは、皆様の自給飼料への自助努力もまた経営にも大きな影響力を持っていると言えます。

○植生調査をしていると見えてくる夢…

植生調査をすると、「ウチは積極的に更新をしているからチモシー主体の自慢の草地だ！」と言われ、結果は「牧草地に占める約7割の草がシバムギ」ということがよくあります。広大な面積ですが土地条件が非常に厳しい草地が多く、厳しい現実が釧路管内には存在します。

釧路管内では経産牛1頭当りおよそ8,400kgの乳量を実現しています。大雑把な表現ですが、エサの約半分を占める自給飼料がシバムギの多い草地から収穫をされているものの8,400kgを達成できています。シバムギの多い草地から牧草地へと生まれ変わることを想像すると…。まだまだ夢は広がります。

○土づくりの基本「土改剤」を施用しよう！

「タンカルを草地に施用していますか？」と聞くと「更新時に施用しているから、それで十分だよ」と答える方が本当に多いなと実感します。

問題『タンカルは更新時のみで本当に大丈夫か？』



写真3) アルファルファ混播草地(弟子屈平成24年7月)

写真3は、草地更新時にアルファルファを混播(3kg/ha)した二つの牧草地です。写真上部は平成20年播種(H20区)、写真下部は平成21年播種(H21区)です。真ん中から線を引いたようにアルファルファの株数に違いがありますよね?この二つの草地にはいくつかの違いがありました。平成24年7月の土壌分析値で、H20区:土壌pH5.18 CaO195mg/100g、H21区:土壌pH5.88 CaO313mg/100gでした。

マメ科牧草を定着させる条件は、「適切なpHである」ことと、「土壌中のカルシウムの絶対量も十分量が必要」です。H20区もH21区も更新時に土改剤を施用したが、土壌中のカルシウム量がH20区がH21区よりも少なかったため、アルファルファの定着が芳しくないと推測します。

更にもう一つ見えてくるのは、pHが下がっていることです。草地更新時にpH6.0以上に矯正しても、3年経つとH20区はpH5.18にまで下がっています。日本は雨・雪が多く毎年pHが下がります。「今の土壌pHを維持するのに40kg/10aの石灰の施用が必要」と言われています。更新時のみの施用は、土壌pHが毎年下がる→マメ科牧草が減る→裸地ができる→シバムギなど雑草が侵入してくる→牧草地ではなくなっていく→牛の状態は…。折角の多額な費用をかけた草地更新も短命となります。正解は『更新時以降も土改剤を施用する必要がありますよ!』です。

○アルファルファは「ケレス」を選定しましょう!

多くの皆様のご協力があってこそですが、弊社の高山(北海道研究農場長)が「アルファルファ・ケレスの育種と限界地帯根釧への普及」に関する功績が認められ、平成22年度農林水産大臣賞を受賞しています。アルファルファ「ケレス」は弊社の育成品種です!実は、**写真3**のH20区とH21区は、同じアルファルファですが品種が違います。アルファルファが少ないH20区はヒサワカバ、H21区はケレスでした。道東地区での定着にも実績が高い弊社のケレスを是非ご指定ください!

○「フレンド(雪印育成品種)」を追播してみる



写真4) 放牧地に追播したペレニアルライグラスフレンド

弊社では、採草地や放牧地への追播をお勧めしています。ペレニアルライグラスは、3年程度で消える可能性があります。種子の発芽勢が強いため追播に向いており、消化性にも優れた糖含量が高い草種です。釧路管内では浜中地区のお客様を中心に一緒に放牧地へのフレンドの追播を数年前から実施しています。「始めは、半信半疑でやってみたけど、フレンドは初期生育が良好で牛の食いもだ良好!」(放牧・浜中)、「フレンドは糖度も高いせいか、発酵が良好で良いサイレージが出来たよ!」(グラスサイレージ・浜中)などの高評価を頂戴しています。ペレニアルライグラス フレンドを追播したい!という方、ノウハウのある弊社へ是非御問い合わせください!!

○良質な自給飼料がたりない方には…。

今年の1番草収穫も終わりましたが、現場では「春の低温で収穫量が少なく在庫が来年までないかも」と話す方が多いようです。「私もその一人だ!」と共感されている方もきっといらっしゃるはず。



写真5) 飼料製品「ファイバーアシスト」

弊社の飼料製品「ファイバーアシスト」をお勧めします。数年前から販売開始し今も高い支持を頂いており類似商品があるほどです。当製品は、ビートパルプとルーサンキューブが約6割を占める粗飼料型飼料製品です。「**圧ペンコーンとビートパルプと一緒に配れるから給餌回数が少なくなって楽!暑い時期もコンディション維持できた!**」(繋ぎ・弟子屈)、「**TMRに入れると、水分調整になるし、キューブが嗜好性を良くしてくれた。在庫も延命できた!**」(フリーストール・弟子屈)などの声を頂いています。是非、ご興味のある方は弊社まで御問い合わせください。

○最後に

日頃より皆様から教えていただくことが本当に多く、その多くを基に今回記事にさせていただきました。この場を借りて、皆様方に心よりお礼申し上げます。

(釧路営業所 福士)